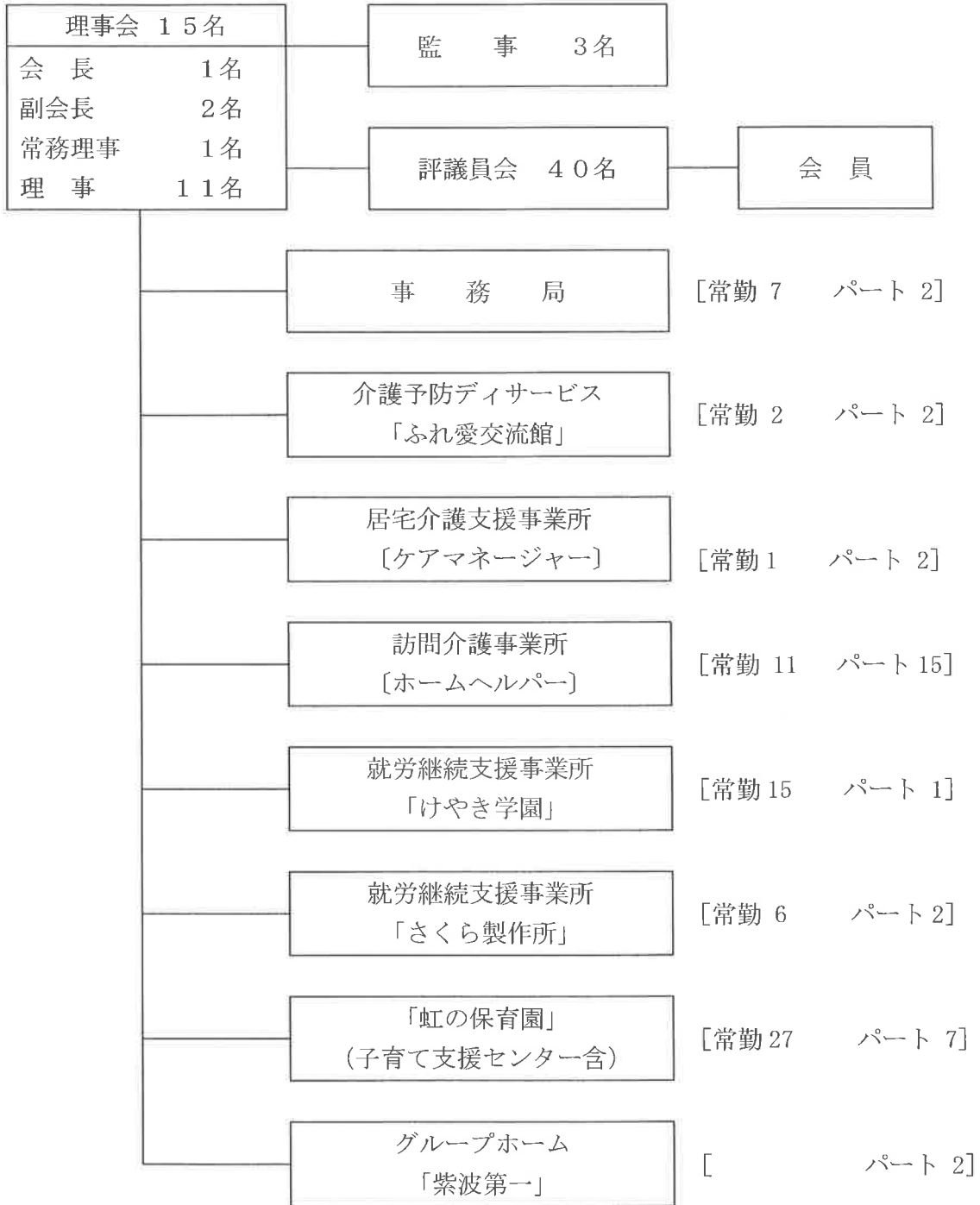


紫波町社会福祉協議会 事業報告書

第1 法人運営

1 組織

平成23年度組織図 (3月末現在)



職員総数

常勤 69 パート 33 計 102 人

2 会 費

(1) 会 費

- ・個人会費 1,000 円以上
- ・法人、賛助会員 3,000 円以上

(2) 実 績

- ・個人会費 8,884,000 円
- ・法人会費 343,000 円 (73 法人)
- ・賛助会費 75,000 円 (4 団体)
- ・合 計 9,302,000 円

第 2 福祉基金保有高

前期末残高	当期取崩額	当期積立額	当期末残高
46,834,193 円	0 円	580,821 円 (寄付金 288,312 利息配当 292,509)	47,415,014 円

第 3 会議・監査会の開催状況

1 理事会

	開催月日	出席者/定数	議 題
第 1 回	5 月 18 日	15/15	・平成 22 年度事業報告、決算 ・定款一部変更 ・規程一部改正 ・平成 23 年度補正予算 ・評議員選任
第 2 回	6 月 6 日	14/15	・会長及び副会長の選任
第 3 回	12 月 12 日	13/15	・規程一部改正
第 4 回	3 月 12 日	14/15	・グループホームの休止 ・平成 23 年度補正予算 ・平成 24 年度事業計画、予算

2 評議員会

	開催月日	出席者/定数	議 題
第 1 回	5 月 25 日	35/40	・平成 22 年度事業報告、決算 ・定款一部変更 ・平成 23 年度補正予算 ・役員の選任
第 2 回	3 月 22 日	34/40	・平成 23 年度補正予算 ・平成 24 年度事業計画、予算

3 監査会

	開催月日	監査内容
第1回	5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度1月～3月事業内容 ・平成22年度1月～3月定例監査 ・平成22年度決算監査
第2回	7月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度4月～6月事業内容 ・平成23年度4月～6月定例監査
第3回	10月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度7月～9月事業内容 ・平成23年度7月～9月定例監査
第4回	1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度10月～12月事業内容 ・平成23年度10月～12月定例監査

第4 福祉活動推進事業

1 広報

(1) 社会福祉協議会広報紙「社協だより」の発刊

社会福祉協議会事業の紹介の他、福祉情報を提供した。

- ・発行回数 6回（全世帯と法人会員に配布）

(2) 「福祉声のおたより」の発行

朗読ボランティア「銀の鈴」の協力を得て、広報紙をカセットテープに録音し、視覚障害者へ提供した。

- ・録音項目 町広報、町議会報、社協広報
- ・会員 10名
- ・利用者 12名

2 金婚を祝う会

長年、苦楽を共に歩んできた夫婦の結婚50周年を祝し、「金婚を祝う会」を開催した。

- ・期 日 11月19日（土）
- ・場 所 ラ・フランス温泉「湯楽々」
- ・参加者 44名（22組）

3 福祉用具の貸出

(1) 車椅子貸出

歩行困難者の日常生活支援のため、6ヶ月間を限度として車椅子を無料で貸出した。

- ・貸出延数 44台（保有15台）

(2) 福祉教育用具貸出

学校の福祉教育推進のため、福祉用具を無料で貸出した。

- ・貸出延数 高齢者疑似体験セット 4回（保有15セット）
- 白杖 6回（保有39セット）
- 点字器 2回（保有39セット）

4 日常生活自立支援事業の支援

障がい者や高齢者の金銭管理を支援した。

- ・利用者数 15名（平成24年3月31日現在）
- ・生活支援員（紫波町担当） 3名

5 福祉団体活動支援

(1) 事務を受託している団体

ボランティア連絡協議会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、身体障害者福祉協会、母子寡婦福祉協会、更生保護女性の会、手をつなぐ親の会

計 7団体

(2) 子育て支援

就学前児童の子育てひろば（子育てサロン）を開催しているボランティアグループを対象として、スタッフの資質向上を図るための研修会を開催した。

- ・実施日 6月27日（月）
- ・場 所 総合福祉センター
- ・内 容 子育てサロン運営講話
- ・参加者 12名

第5 ボランティアセンター事業

1 手話講座

ろうあ者相談員の講師により、手話講座を開設した。

- ・実施日 毎月第2、第4土曜日
- ・場 所 総合福祉センター
- ・登録人数 15名

2 お話し相手ボランティア

介護予防ディサービス「ふれ愛交流館」のボランティアとして活動した。

- ・実施日 毎週火～金曜日
- ・場 所 総合福祉センター
- ・登録人数 2名

3 配食ボランティア

老人お楽しみ会の昼食弁当配食のボランティアとして活動した。

- ・登録人数 39名

4 高齢者サロン「いこいの家」ボランティア

各地区の「いこいの家」運営に、ボランティアが携わった。

- ・延人数 2,660名

5 ボランティア活動保険加入推進

加入状況

- ・基本プラン 団体 36 個人 2 計 2,189 名
- ・天災プラン 団体 6 個人 101 計 182 名

6 災害ボランティアセンター

平成 23 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震による東日本大震災の発生により、町の要請を受け、紫波町総合福祉センターに災害ボランティアセンターを設置した。

平成 23 年度の活動内容は次のとおりである。

(1) 避難所の運営

月日	内容
3/19	「JA 志和支所生活会館」に沿岸被災者の避難所を開所した。 調理ボランティアとしてボランティア連絡協議会、農協女性部、婦人会、食改協が参加した。 また、救援物資仕分けなどに、地元住民がボランティアとして参加した。 ・ボランティア活動参加延べ人数 906 人
5/20	避難所を「マンション紫波中央」へ移転した。
8/20	避難所を閉所した。

(2) 町内避難者への救援物資の配布

紫波町、県社協と協力し、救援物資を配布した。

- ①実施回数 4 回 (4/23、5/27、12/22、2/4)
- ②配布物品 食料品、日用雑貨、衣類、衛生用品等

(3) 沿岸部でのボランティア活動経費の支援

- ①共同募金の助成金を活用し、町内の団体が沿岸被災地でのボランティア活動を実施した際に、活動経費を支援した。

- ・団体数 6 団体 (NPO、地区公民館、ボランティア団体)
- ・活動回数 延 12 回
- ・支援内容 車両借り上げ料、ガソリン代等

- ②共同募金の助成金を活用し、沿岸被災地で活動するボランティアが加入するボランティア活動保険〔天災プラン〕の保険料を助成した。

第 6 共同募金配分事業

1 地域交流イベント「ふれあいフェスタ」

障がい者と健常者がお互いの立場を理解し交流を深めるために開催した。

- ・実施日 10 月 2 日 (日)
- ・場 所 ナックス
- ・内 容 コンサート (出演 10 団体)
体験・実演 (参加 8 団体)
販売・軽食 (出店 15 団体)

2 ボランティア協力校の指定

町内小・中学校全校及び紫波総合高校をボランティア協力校に指定し、ボランティア活動の推進に努めた。

- ・活動助成金 40,000円×15校=600,000円

3 各種団体助成

福祉関係団体への助成を実施した。

- ・地区社協 9地区 905,000円
- ・子育て支援ボランティア 3団体 70,000円
- ・福祉団体 7団体 1,295,000円
- ・その他 3団体 220,000円

第7 紫波町受託事業

1 無料相談事業「ふれあい相談所」

住民の抱えている問題の解決に援助、協力するため、無料相談所を開設した。

- ・実施日 毎週水曜日
- ・場 所 福祉センター相談室
- ・相談員 人権擁護委員5名、弁護士1名
- ・件数内訳

生 計	年 金	職 業・生 業	住 宅	家 族	結 婚	離 婚
2	0	1	4	15	0	11
健康・衛生	医 療	精神衛生	人権・法律	財 産	事 故	児童・母子保健
1	1	0	1	16	1	1
日常生活自立支援	障害者福祉	母子・父子福祉	高齢者福祉	苦 情	その他	合 計
0	0	0	0	2	33	89

2 移送サービス

車椅子利用者等で一般の交通機関の利用が困難である高齢者や障がい者（町認定者）を対象として、病院や福祉施設等へ移送する有償のサービスを実施した。

- ・利用登録者数 123名
- ・利用延べ回数 756回
- ・運 転 手 3名
- ・専用車両 3台

3 介護予防デイサービス「ふれ愛交流館」

介護保険要支援に準じた高齢者（町認定者）を対象に実施した。

- ・開設日数 192日（火曜日～金曜日）
- ・開設場所 福祉センター
- ・登録者数 49名（3月末現在）
- ・延べ利用者数 1,889名
- ・実施内容 生活管理、趣味創作、給食、季節行事他

4 高齢者サロン「いこいの家」助成事業

町内のひとり暮らし老人や老夫婦世帯の孤独感解消や健康保持を目的に、ボランティアが実施する高齢者サロン事業「いこいの家」に、補助金を交付した。

- ・ 交付額 1回 3,400 円、月 1 回を上限（財源内訳 町 2.4 千円、社協 1 千円）
- ・ 地区別開催状況

日 詰	古 館	水 分	志 和
15 箇所 73 回	6 箇所 48 回	7 箇所 31 回	14 箇所 73 回
赤 石	彦 部	佐比内	赤 沢
14 箇所 41 回	7 箇所 42 回	10 箇所 46 回	8 箇所 31 回
長 岡	合 計		
11 箇所 65 回	92 箇所 450 回		

5 老人お楽しみ会

65 歳以上の一人暮らし老人及び共に 75 歳以上の二人暮らし世帯を対象に、次の事業を実施した。

(1) 日帰り温泉旅行

- ・ 実施月日 6月 23 日 ホテル志戸平 165 名参加
- 10月 20 日 ホテル森の風 184 名参加

(2) 配食サービス

毎週金曜日に昼食弁当をボランティアが配布した。

- ・ 利用者 76 名（3 月末現在）
- ・ 利用者負担 1 食 200 円

6 訪問型介護予防（ホームヘルパー派遣）

介護保険要支援に準じた高齢者（町認定者）を対象に、ホームヘルパーを派遣した。

- ・ 利用実績 (単位：人、回、時間)

年度 区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
派遣対象者数 (3月末実績)	8	3	6	12	12
派遣回数	402	229	233	437	640
派遣時間	414.5	229.0	233.0	428.0	696.0

- ・ 受託金額 978,300 円

7 障害者外出介助事業（ガイドヘルパー派遣）

障がい者（町認定者）を対象として、ガイドヘルパーを派遣し、外出介助を実施した。

- ・ 利用者数 4 名
- ・ 派遣回数 37 回
- ・ 派遣時間 231 時間

8 障がい者スポーツ交流会

障がい者の体力増強、交流を目的にスポーツ交流会を実施した。

- ・実施時期 12月10日(土)
- ・実施場所 ビックハウス スーパーレーン
- ・実施種目 ボーリング
- ・参加者 当事者とスタッフ 63名

9 虹の保育園

指定管理者として紫波町立虹の保育園を運営した。

※事業実績は別添のとおり

10 地域子育て支援センター

紫波町立虹の保育園に併設している地域子育て支援センターを運営した。

※事業実績は別添のとおり

第8 資金貸付事業

1 たすけあい金庫

緊急出費を要し、援護の必要がある方を対象として資金貸付を実施した。

- ・利用限度額 50,000円
- ・当期利用状況 6件、215,000円

2 生活福祉資金(県社協委託事業)

- ・当期利用状況 62件
 - 内訳 緊急小口資金 32件(内緊急特例7件)
 - 総合支援資金 16件
 - 教育支援資金 10件
 - 福祉資金 2件
 - 不動産担保資金 2件

第9 介護保険事業

1 居宅介護支援事業(ケアプラン作成)

介護保険において要介護認定を受けた方の介護サービス計画(ケアプラン)の作成、見直し及び介護サービスに関わる連絡・調整等を実施した。

- ・利用者数(3月実績) 80名
- ・介護支援専門員数 3名
- ・総収入額 10,199,000円

2 訪問介護事業(ホームヘルパー派遣)

要介護認定者へ訪問介護サービスを提供した。

・利用実績 (3月末)

(単位：人、回、時間、千円)

年度		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
区分						
契約者数		122	111	119	113	102
実利用者数	要支援1	10	8	12	6	7
	要支援2	13	15	15	24	18
	要介護1	26	26	20	16	23
	要介護2	11	14	20	25	18
	要介護3	20	15	15	13	10
	要介護4	13	10	11	14	14
	要介護5	8	7	9	12	7
	計	101	95	102	110	97
派遣回数	身体介護	7,476	6,929	6,885	7,496	8,270
	生活援助	5,726	5,121	4,772	5,021	5,266
	身体・生活	1,228	1,155	1,829	2,321	1,713
	介護予防	216	317	338	871	307
	計	14,646	13,522	13,824	15,709	15,556
派遣時間	身体介護	5,840.5	5,416.0	5,076.5	5,523.5	5,691.5
	生活援助	6,107.5	5,656.0	5,164.0	5,344.0	5,688.0
	身体・生活	1,599.5	1,493.0	2,343.0	2,782.5	2,235.5
	介護予防	1,288.5	1,670.5	2,000.5	1,948.5	1,790.0
	計	14,836.0	14,235.5	14,584.0	15,598.5	15,405.0
収入額(介護報酬)		47,083	44,689	48,372	52,789	52,385

第10 障害者自立支援事業

1 障害者居宅介護事業(ヘルパー派遣)

障害者自立支援法における利用者へ居宅介護サービスを提供した。

・利用実績

(単位：人、回、時間、千円)

年度		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
区分						
派遣対象者数		16	16	18	15	17
派遣回数		2,043	1,957	3,235	2,705	2,256
派遣時間		3,236.5	2,903.0	3,586.5	2,903.5	2,520.5
自立支援費収入		8,838	8,522	11,782	9,660	7,943

2 就労継続支援事業所「けやき学園」

障害者自立支援法に基づく就労継続支援事業所として「けやき学園」を運営した。

※事業実績は別紙のとおり

- 3 就労継続支援事業所「さくら製作所」
 障害者自立支援法に基づく就労継続支援事業所として「さくら製作所」を運営した。
 ※事業実績は別紙のとおり
- 4 共同生活援助事業所グループホーム「紫波第一」
 一般住宅を借用し、けやき学園通所者が共同生活を行っている。
- ・箇所数 1ヶ所
 - ・利用者数 3名
 - ・利用者負担 食事代、水道光熱費、家賃等 1ヶ月 55,500円

第11 赤い羽根共同募金、歳末たすけあい運動の推進

1 赤い羽根共同募金

(1) 募金運動

- ・運動実施期間 10月～12月
- ・募金実績額 6,247,773円

(2) 災害見舞金交付

- ・火災被害（半焼以上） 3件 4万円（建物全焼2件2万円、死亡1件2万円）

2 歳末たすけあい運動

低所得世帯や母子・父子世帯や常時介護を要する方に、義援金を配分した。

- ・運動実施期間 10月～12月
- ・募金実績額 5,305,398円
- ・配分額 4,518,000円
- ・配分内訳

区 分		世帯・人員	単 価	金 額
要保護世帯	高齢者・母子・遺児等世帯	338世帯	11,000円	3,718,000円
常時介護を要する個人	寝たきり・認知高齢者、重度障害者	160人	5,000円	800,000円

好きな本を存分に読むことができるように、図書のコーナーを毎日、終日開放。送迎時に親子でゆっくりと絵本に親しむ環境を提供した。また子育て支援センターにおいては保護者向けの本の設置も試みた。

保育の場面においても、保育士による、読み聞かせを積極的に行った。

⑤畑での野菜の栽培を実施

幼児部を中心として、子どもたち自身で苗や種から野菜の栽培をし、成長の過程を観察したり、収穫をした。また、給食担当者とともに収穫野菜を利用し、年長児、年中児を中心に調理体験を試みた。

2 特別保育実施状況

(1) 延長保育

月曜日から土曜日まで開設時間を、延長し保育を実施。

①時 間 朝：午前7時～7時30分、夕：午後6時～7時

②利用者 利用登録延べ人数 37名（平成24年3月末日29名）
利用延べ人数 4,732名（平成23年4月～24年3月）

(2) 一時保育

町内在宅児童を対象に、時間単位での預かり保育を実施。

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
人数	229	452	661	787	871	670	860	607

(3) 休日保育

町内在住児童を対象に日曜日、祝祭日に一日単位での保育を実施。

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
人数	42	70	36	18	18	22	114	145

3 防災訓練・交通安全教室等実施状況

東日本大震災時の職員の動きや避難の方法を検証し、マニュアルの見直しをした。

災害発生時に、職員をはじめ子どもたちが冷静に適切な行動をとることができるようにあらゆる保育時間帯において実施した。また送迎時間と重なる場合においては、保護者の理解と協力を得るよう試みた。

不審者対策の訓練においては、地域駐在所警察官に協力をいただきながら訓練を実施し結果についての助言を受けるなど今後の検討課題の確認をした。

①避難訓練 火災想定6回、地震想定4回、水害想定2回

②初期消火訓練 2回

③交通安全教室 3回

④防犯訓練 1回

⑤心肺蘇生法 1回

⑥救急処置法 1回

4 給食実施状況

(1) 給食実施結果

厚生労働省が示している食事摂取基準に基づいて乳幼児にとって適切な給与栄養量を確保できるよう、子どもの発育、発達状況や家庭環境、栄養状態を考慮しながら年間の食育計画を立案した。また、0歳児については入所の月齢を基準とし、家庭と連絡をとりながら、個々の成長に合わせた離乳を進めるよう試みた。

(2) 家庭への食育啓蒙状況

①献立表の配布

毎月0～2歳児及び3～5歳児の献立表を入所児の家庭に配布した。

また、毎月、食事だよりを発行し、季節に合わせた食材や行事食についての提案を試みた。

②給食サンプルの展示

乳児用、幼児用の給食サンプルを玄関ホールに展示し、保育園への送迎時に保護者が実際に見ることにより、子どもの食事についての認識を深めるよう試みた。

③誕生会昼食会

誕生会の昼食は完全給食（主食、副食）を実施し、3歳から5歳児までの園児がともに食事をした。また、誕生月の年長児の保護者は希望により会食に参加していただいた。

④弁当昼食会

保護者の協力のもと、月に1回弁当持参の日を設定し、戸外での昼食に出かけ、子どもたちが家庭の味の良さを実感する機会を作った。また、弁当を喜んで食べる子どもの姿を伝えることにより、保護者に手作りの良さを実感することができるよう試みた。

⑤食事マナーの習得

集団で食事をする中で、どのようにしたら、互いが快く食事ができるかを子どもたちとともに考え、それぞれの年齢に合った食事におけるマナーを伝えた。

⑥地産地消の推進

産直の野菜など地場産物を積極的に取り入れた昼食を子どもたちに提供した。

また、父母の会主催のバザーの試食として、手づくりおやつを提供した。

今年度は、園のおやつを完全手づくりとした。

⑦調理の取り組み

給食担当者の指導により、年長児を中心に簡単な調理を体験した。

また、2歳児から5歳児の子どもたちが合同で一つのものを作る調理を体験した。

(3) 衛生状況

①給食安全管理

給食安全管理に基づき安全な調理を実施した。

②職員細菌検査

- | | |
|---------------------|------------|
| ・全職員 | 年1回（4月に実施） |
| ・調理及び、乳児担当者、調乳担当職員、 | 毎月1回実施 |
| ・検査結果 | 異常なし |

(4) アレルギー除去食の提供

乳製品、卵、木の実、等食品についてアレルギー症状を示す乳幼児についてクラス担任と栄養士、調理師が連携を取りながら、医師による診断書に基づき個別に献立を作成し、除去食を提供した。

5 児童の健康診断実施状況

児童の内科健診を年に2回（5、10月）、歯科健診を2回（6月、11月）、ぎょう虫卵検査を年に1回（5月）に実施した。

6 保護者との連携

(1) 父母の会

定期的に役員会を開催し、連携を深めるとともに、諸行事運営、草刈りや園内清掃等の環境整備にご協力をいただいた。

父母の会主催のバザーでは、例年どおりのバザーと郷土食や手づくりおやつを試食を企画し、同時に、衣服の提供を呼びかけ、集まった物資を東日本大震災被災地へ父母の会会長はじめ、役員によって届けた。

(2) 保護者

送迎時に保育実践の場面での出来事を通して、保護者と対話を持ったり、個人連絡帳を活用しながら、より細やかなコミュニケーションを図った。

また、保育参観日やクラス懇談会を開催し、保育内容の公開をしたり育児相談、意見交換などを実施することにより、保育士と保護者、保護者同士の交流の場を作った。

7 地域交流

(1) 異世代間交流

①支援センター高齢者ボランティアグループ「そよかぜクラブ」との交流

畑作り、栽培、収穫、収穫野菜を使ったエコバザーでの試食会を実施した。

年中行事（みずき団子、雛まんじゅう作り）を実施し交流を図った。

②地域の催しへの参加

年長児は、地域で行われる様々な催しに、さんさ太鼓や踊り、歌などを披露し、参加することで、交流を持った。

地区公民館での小正月行事へ3歳児から5歳児までが参加し、地区の老人クラブの方々にみずき団子作りを教えていただき、交流をした。

③日々の保育場面での小中学生とのふれあい交流を実施した。

④志和地区の高齢者クラブの協力により、地区の高齢者を園に招いて、園児と遊びの時間を通して交流を図った。

⑤卒園児童（小学校1年生）を園に招き、卒園前に作った味噌で調理を実施した。

(2) 関係団体との交流

①読みきかせボランティア「お話の森」「カーネーションの会」によるお話会の実施

②愛犬グループ「きらきらの会」による、犬とのふれあい会の実施。

③地域祭りでの山車ひき参加、地域行事「夏祭り」への参加

- ④ふれあいフェスタ、敬老会、金婚を祝う会への参加出演（年中、年長児）
- ⑤地元河川漁協の稚魚放流に参加

(3) 啓蒙活動

- ①夏祭り、運動会、発表会等の諸行事の案内、ポスター掲示
- ②保育園便りを社協広報へ掲載
- ③地元祭りでのさんさ太鼓演奏
- ④要望企業へ園児の絵画を掲示
- ⑤保育園パンフレットの作成、配布
- ⑥職員による手づくりコンサートの開催

8 職員資質向上のための研修

(1) 各種研修会への参加

- ①保育所保護者支援研修
- ②町内保育部会年齢別研修
- ③町内栄養士、調理師研修
- ④放射線セミナー
- ⑤社会福祉従事者中堅職員研修
- ⑤会計実務講座

(2) 園内研修の実施

- ①平成21年4月施行の保育所保育指針に基づく保育課程、年齢別年間計画、月間計画、個別計画等の作成と再検討のための勉強会を実施。
- ②子どもにとってより良い保育環境を整えるための勉強会を実施。
- ③特別支援学校教諭を招いた園児へのはたらきかけについての勉強会を実施。

9 諸会議の開催及び参加

(1) 職員会議

- ①職員全体会議、組リーダー会議を毎月1回実施。
- ②給食担当者会議、乳児部、幼児部リーダー会議を必要に応じ実施。
- ③乳幼児部連絡会議を毎週1回実施。

(2) 関係機関の会議への参加

- ①紫波町社会福祉協議会各種会議
- ②紫波町福祉課定例会議

10 視察、実習生の受け入れ

- | | | |
|------------------|------|-------|
| (1) 視察 | 8 団体 | 114 名 |
| (2) 保育士養成学校生保育実習 | 3 校 | 4 名 |
| (3) 高校生インターンシップ | 1 校 | 2 名 |
| (4) 小中学校生徒保育体験 | 4 校 | 132 名 |
| (5) 保育ボランティア | 2 校 | 2 名 |

- ②対 象 0歳から就学前の乳幼児と保護者
- ③延参加者 乳幼児743名、母407名、祖母31名、祖父1名、父13名
- ④内 容 親子でゆっくりとあそぶことができ、時間内であれば自由に立ち寄る場所として開放する。

2 子育て等に関する相談・援助の実施

- ①実 施 日 毎週月～金曜日 9:00～17:00 毎週土曜日 9:00～15:00
- ②対 象 子育て中の親またはその関係者
- ③内 容 来園または電話による相談
園の看護師、栄養士、重点的な支援が必要と判断された親子（家庭）については町内支援センター、保健師、役場担当課との連携と協働をはかりながら対応。

④相談実績

相談内容	件数
健康発育・食事授乳	80
しつけ育児	45
保育所・幼稚園	44
一時預かり	24
その他	48
合計	241

相談方法		
種類	来所面会	電 話
件数	229	12

※その他の相談の内容として、昨年度同様に母の精神不安18件と多いが震災の影響から放射能の不安1件・子どもが地震におびえる（震災不安）6件が新たな相談内容として加わる。

3 地域の子育て関連情報の提供

子育て中の親子が必要とする身近な地域の様々な子育てについての情報を提供した。

- ① 紫波町内の支援センター、子育て支援ひろばまた保健センター同士、情報の交換・連絡・共有をし、広場開設時に利用者に提供した。
- ② 研修・経験などで得られた専門知識を広場開設時に提供した。
- ③ センター通信を発行した。（センター予定表・子育て情報・食育情報を各月1回）
地域の方々にもセンターの情報を知っていただくためにセンター予定表を配布した。（郵便局、ラ・フランス）

4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ①広場開設時における親子体操、絵本の読み聞かせ、製作等の実施 各月8回程度
- ②給食試食会の実施 月1回 延べ参加人数 幼児13名、大人14名
- ③離乳食ミニ講座 月1回 延べ参加人数 乳児71名、大人60名
- ④自然観察の会の実施 年1回 参加人数 幼児10名、大人9名
- ⑤救命救急法講座 年1回 参加人数 幼児4名、大人3名
- ⑥食育体験の実施 年2回 延べ参加人数 幼児22名、大人18名

5 地域支援活動の実施

(1) あおぞら広場

- ①実施日 毎月第4月曜日 9:00~12:00
- ②対象 0歳から就学前の乳幼児とその保護者
- ③延参加者 乳幼児56名、母32名、祖母6名、小学生17名
- ④内容 町内の公園へ支援センターの職員が出向き、親子に遊び方を提供。

(2) レッツゴー公民館

- ①実施日 平成23年7月29日（赤沢公民館）
平成24年2月27日（中央公民館）
- ②対象 0歳から就園前の乳幼児とその保護者
- ③延参加者 赤沢公民館：乳幼児16名、母10名
中央公民館：乳幼児28名、母22名
- ④内容 町内の公民館へ町の支援センター職員と一緒に出向き、親子に遊び方を提供。

(3) 子育て支援ひろば

- ①実施日 平成23年10月20日（水分公民館）
平成23年12月15日（志和公民館）
平成24年1月19日（志和公民館）
- ②対象 0歳から就園前の乳幼児とその保護者
- ③延参加者 水分公民館：乳幼児5名、母5名
志和公民館：乳幼児20名、母18名
志和公民館：乳幼児14名、母12名
- ④内容 ボランティアの実施する子育てサロンへ出向き、親子に遊び方を指導。

6 子育てサークル育成支援

広場利用者によるサークルの活動の場を提供するとともに自主的な活動の推進を支援した。

(1) 親子サークル

支援センターを拠点として活動し、親子の交流を図った。11回。

7 異世代間交流

(1) 高齢者ボランティア講座 [そよかぜクラブ]の開催

支援センターを拠点とし、地域の高齢者と広場参加者、在園児との交流を実施した。

- ①実施日 毎月第2月曜日、第4水曜日 9:00~12:00
製作等により実施日を増やす月もあった。
- ②対象者 保育園近隣在住の高齢者
- ③内容 園や支援センターの畑づくり、乳児用エプロン作り、運動会のメダルや卒園児へのエンブレム作り、虹まつりでの食育講座、民謡の会の方々と共演し歳末たすけあいに参加、在園児とのみずきだんご作り、ひなまんじゅう作り。

手作り人形劇公演 7 回（町内外の保育・児童・老人施設、中央公民館）

④登録者数 13 名（延べ参加人数 398 名）

(2) 卒園児との交流会

卒園後の子どもたちの見守りの試みとして実施した。

①実施日 平成 24 年 1 月 12 日 15:00～17:00

②対象者 前年度卒園児 20 名とその保護者

③内容 支援センターに卒園児を招き、在園児との交流会を開催した。
卒園児が作ったみそを使い、各自みそおにぎりを作りおやつとして在園児と食した。

保護者同士の交流を図ることにより、就学における不安などを話し合う場として提供した。

平成23年度

けやき学園 事業報告書

18歳以上の障がい者の方への作業訓練を通して生産活動の場を提供し、個々の能力及び適性に応じて次のような事業を実施した。

1 事業所運営に関すること

(1) 利用登録者数について 定員 50名

①当期末登録者数 42名（男性20名、女性22名）
（紫波町37名、矢巾町2名、花巻市3名）

②平均年齢 34.4歳

(2) 開所日数

①年間開所日数 239日

②月平均開所日数 19.9日

(3) 利用者数

①年間延べ利用者数 9,220名

②1日の平均利用者数 38.5名（前年度より2.0名減）

(4) 職員体制について

①常勤職員 15名

②パート職員 1名

(5) 事業稼働について

①4月より障害者自立支援法に基づく新事業（就労継続支援B型事業）に移行した。

②余震による休所、インフルエンザ流行による休所を余儀なくされた。このことから
検証を深めること、危機管理を含めた事業の安定稼働に必要な対策を講じることが
求められた。

③施設建物の必要箇所の修繕整備に努めた。

(6) 運営費収入について

①自立支援費収入 73,537,250円（前年度より67,216円減）

2 利用者支援に関すること

(1) 個別支援計画（日常生活・就労支援他）の作成

利用者本人の意向を尊重し、作業及び基本的な生活を保つために前後期計2回の個別
支援計画を作成し、支援方策の反映に努めた。

(2) 生産活動について

①生産活動の成果について

個々の能力に応じた適性作業に結びつけられるよう支援に努めた。

作業収入目標額1,050万円に達しておらず、振り返りを十分に行いたい。

印刷科	2,378,830円	手拭、タオル、Tシャツ、ジャンパー等の印刷 (前年度より368,370円減)
障子襖科	3,539,600円	障子ふすま及び網戸の張り替え (前年度より302,300円増)
園芸科	1,314,708円	花苗と寄せ植え販売、花壇用花苗の注文販売、産直出荷 (前年度より53,606円減)
受託科	1,643,521円	調味料容器のキャップ締め、菓子袋のシール貼り、部品組立、ペットボトルキャップ選別とペレット製造 (前年度より693,005円減)
計	8,876,659円	(前年度より809,681円減)

②工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 4,019,270円 (前年度より561,300円減)
- ・一人当たり月平均支給額 7,974円 (前年度より508円減)

③売り上げ向上に向けた対策として

- ・バザー出店や町内商業施設へ出品するなど、販売機会を増やすこと、販路の拡大に努めた。紫波マルシェ(オガール紫波内販売ブース)の出荷者登録を行った。
- ・購買力を高める手法を学ぶため、関連する研修会に積極的に出席した。
- ・情報誌等に製品の宣伝記事を適宜掲載した。

(3)健康診断の受診と健康支援の実施

①健康診断 5月、12月の2回

②嗜好調査を行い、昼食提供と健康支援に反映させた。

③流行性を含む疾患や傷病への対策と発生後の必要行動について課題が残った。

(4)行事、クラブ活動等について

利用者の情操と健康維持を目的に、外部講師の協力を得ながら積極的に活用した。

①行事等

体験旅行日帰りと一泊を選択していただいて実施した。

②クラブ活動

- ・音楽クラブ 月1回 希望者28名
- ・3Bクラブ 月2回 希望者20名
- ・水中運動クラブ 月1回 希望者20名
- ・軽運動クラブ // 希望者18名 ※クラブは2つの活動を選択

③その他

インターネット閲覧、パソコン講習会を随時設定した。

(5)本人活動・自治会活動への支援

①会議運営の補助

日常生活の改善点や行事に関して利用者の意向を吸い上げ、見直しを図った。土日の行事開催については次年度に反映させることとした。

②行事企画への補助等

(6) 就労支援

主だった取り組みはなされず、次年度の取り組むべき優先事項としたい。

3 その他の事業・活動について

(1) 交流会、関係団体行事への参加

- ①各種団体と交流会を実施した。
- ②各種イベントでの出店、各種スポーツ大会への参加

(2) 苦情解決

利用者から不安や悩み、保護者からは要望の申し出があった。必要な情報収集に務めながら状況改善に努めた。

(3) 地域生活援助事業（グループホーム）

グループホーム世話人との連携を常に保ち、定期的な訪問支援を行いながら、必要支援に努めた。

- ・定員…4名
- ・利用者…3名（当期末1名）

(4) 会議の開催

月単位と週単位での会議とミーティングを設けて協議を深めた。会議を通して利用者支援に欠かせない情報の共有に努めた。

(5) 実習と見学者の受け入れ

- ①支援学校等からの実習生受け入れ 6校、7名
- ②学校機関からの実習生受け入れ 4機関、8名
- ③支援学校や団体等の視察受け入れ 9件、130名

(6) 被災事業所への支援

- ①はまなす学園への人的支援（2泊3日、5月）
- ②県障がい者福祉協議会事業として物資輸送支援（8月）

平成23年度

さくら製作所 事業報告書

当事者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、障害者自立支援法施行規則に規定する対象者に対し、就労の機会・生産活動その他活動の機会を提供することで、知識及び能力の向上に必要な訓練等を適切かつ効果的に行うことを目的に、各種事業を展開した。

1 事業所運営に関すること

- (1) 利用登録者数について 定員 20 名
 - ①24 年 3 月末登録者数 29 名 (男性 18 名、女性 11 名)
(紫波町 23 名、矢巾町 4 名、花巻市 1 名、盛岡市 1 名)
 - ②日中一時支援 24 年 3 月末登録者数 1 名
- (2) 事業所開設日数
 - ①年間延べ開所日数 257 日 (前年度より、12 日増)
 - ②月平均開所日数 21.4 日 (前年度より、1 日増)
- (3) 利用者数
 - ①年間延べ利用者数 4,711 名 (前年度より、208 名増)
 - ②1 日の平均利用者数 18.3 名 (前年度より、0.1 名減)
- (4) 職員体制
 - ①常勤職員 5 名
 - ②臨時パート職員 3 名
- (5) 運営管理について
 - ①関連機関との連絡調整会議参加 12 回
 - ②県内外研修会参加 16 回
 - ③避難・防火訓練実施 2 回
- (6) 運営費収入について
 - ①自立支援費収入総額 29,404,020 円 (前年度より、1,134,240 円増)

2 利用者支援に関すること

- (1) 個別支援計画 (日常生活・就労支援他) の作成
面談を実施し、個人ごとに本人の意向を重視した支援計画を作成した。
- (2) 一般就労の推進
ハローワークや就労支援に関わる関係機関と連携し、一般就労を推進した。
 - ① 平成 23 年度の一般就労者数 1 名

(3) 嘱託医による健康診断の実施

① 実施回数 2回

(4) 余暇活動（食事会・軽スポーツ・軽体操・創作活動他）

外部講師等の協力を得ながら趣味創作活動を定期的の実施した。

① 実施回数 42回

3 生産活動の状況

(1) 生産活動の成果について

区分	総売上高	作業内容
受注作業部	1,803,551円	調味料のミニボトルのキャップ締め、事務機器の部品組立と検査、印刷他 (前年度より、809,743円減)
外販促進部	1,418,397円	各種イベント、役場販売他 (前年度より、495,492円減)
就労促進部	284,714円	メール便の配達他 (前年度より、175,779円減)
計	3,506,662円	(前年度より、1,480,014円減)

(2) 利用者工賃支給について

①年間工賃支給総額 3,410,367円（前年度より、277,805円増）
一人当たり月平均支給額 11,368円（前年度より、1,670円増）
②年間ボーナス（期末手当）支給総額 180,000円（前年度より、139,000円減）
一人当たり平均支給額（期末手当） 3,115円（前年度より、3,531円減）

4 その他の事業・活動について

(1) 送迎・買い物支援サービス

①送迎サービス利用者数（当期末現在） 15名

②買い物支援実施回数 週2回（月・金）

(2) ボランティア、地域交流、レクリエーション行事への参加

(3) 苦情解決

当事者等からの苦情に適切に対応し、今後の事業所運営に反映させる事に努めた。

(4) 事業所利用体験実習、視察、学生体験実習等の受入

①年間事業所見学者数（当事者他） 24名

②年間事業所利用体験者数（当事者） 9名

③年間ボランティア等受入数（学生他） 24名